Association for the University Evaluation

第26号（2010－3） 2011年2月1日

大学評価学会通信

目　次

◆　第８回大会実行委員会よりのご挨拶　……　1
◆　第32回研究会の報告　……　2
◆　理事会報告　……　3
◆　会員総会への提案事項について・学会日誌　……　8

大学評価学会第８回大会へのご参加を歓迎します

マクロ的大学評価の視点を

大会実行委員長
代表理事　碓井敏正（京都橘大学）

第三者評価が義務化されて７年が経過し、この間、すべての大学が認証機関の評価を経験した。今後、第三者評価や学内自己評価が評価文化として定着し、評価対象も細分化され、年中行事的に評価作業が繰り返されることになるであろう。しかしこの間、評価によって大学のあり方が本当に改善されたのであろうか。リーマンショック時の有力私学による巨額の損失をはじめ、各種のスキャンダル、それに高止まりしている授業料などを見れば、残念ながら大学が本当に良くなったという実感はない。

このことは現状の評価の限界を示すものである。そもそも現状における評価は、大学の既存のあり方を前提としており、その枠内での評価にとどまっている。したがって評価の対象となる大学の根本的あり方に問題があれば、評価は現状を糊塗する役割を果たすことになりかねない。

現在の大学の最大の問題は、大学が高等教育機関としての本来の役割（国民に広く高等教育の機会を提供する）よりも、大学間競争の中で、いかによいポジションを確保しながら、生き残るかを主要な課題としているところにある。組織というものは一旦成立すると、所期の目的よりも組織の自己維持を優先課題とするようになる。この点は一般企業をはじめ、すべての組織に共通する傾向であるが、悪いことに、大学は企業に比べはるかに開放性に欠けているため、自らのあり方をチェックする能力に欠けているのが現状である。

企業が問題を起こせば、株主総会で経営者責任が追及されるし、場合によっては、株主代表訴訟を起こされるであろう。ところが大学の場合には、このような制度設計がなされていない。このような現状が、大学経営者の甘えとおごりを生んでいるように思われる。いま求められているのは、大学が抱える根本的問題をカバーできるマクロ的でメタ・レベルでの評価のあり方ではないのだろうか。

〈第8回全国大会に関する事務局からのご連絡〉

１．全国大会のご案内について

会員のみなさまに各3部同封しております。ご関心の方に、お渡しいただきますようお願いいたします。余部が必要な場合には事務局までご連絡くだされば、お送りさせていただきます。また、あわせて、この機会に大学評価学会への入会を呼びかけていただけますと幸いです。

２．大会期間中の昼食について

大学付近には、食事をとれる場所は余りありません。初日（12日）は大学生協が営業しておりますので、ご利用ください。2日目（13日）については、事前にご予約いただければ、お弁当を準備します。詳しくは、学会ウェブサイトでご案内します。

※　事務局への申込みは、3月11日（金）17時までにお願いします。大会会場での申込みは、3月12日（土）13時までとさせていただきます。

京都橘大学へのアクセスについて

京都橘大学にお越しの際は、京都駅から京阪バスの「山科急行線」が便利です（直通の場合は、最速24分）。乗車は京都駅八条口（新幹線側）のバス停になります。大学まで乗り入れしない便もありますので、ご注意ください。

※詳しくは、大学ホームページの「交通アクセス」からご覧になれます。

第32回 研究会について（報告）

大学評価学会では、ここ数年11月第2土曜日に、東京で研究会を開催しています。今年は、駒澤大学深沢キャンパスを会場として、学会代表理事でもある海部宣男氏（放送大学）に「日本学術会議『日本の展望2010』について」と題したテーマで報告いただきました。参加者は、約20人でした。

海部氏は、「日本の展望　2010」を策定するに至った背景、その内容、今後の課題等について詳細かつ論点を鮮明にして報告されました。報告を受けて、参加者からの質問についても詳しく答えていただき、日本学術会議が明らかにした提言の内容や意義についての理解を深めることが出来たように感じています。

海部氏の報告の詳細については、これをとりまとめるだけの能力はもちあわせておりません。以下に記してある資料が有益ですので、関心をお持ちの方は、そちらをご覧いただければと思います。

最後になりましたが、（懇親会を含め）開催にあたってご尽力いただいた岩波文孝会員（駒澤大学）に感謝申し上げます。

【資料紹介】

高等教育研究会（細井克彦代表）が発行する『大学創造』の近刊（第25号、2010年12月、定価1,050円（税込み））に、海部宣男氏の「『日本の展望－学術からの提言2010』　日本における学術研究について」が掲載されています。これは、同研究会の第94回定例研究会（2010年8月1日）での海部氏の報告を収録したものです。11月13日の学会研究会でも、資料として配付されました。

『大学創造』の入手を希望される方は、以下までご連絡ください。

高等教育研究会（担当：佐々江洋志 氏）
〒602-8469　京都市上京区中筋通浄福寺西入中宮町311
電話：075（415）0962　Fax：075（415）1093
e-mail: shes@ha.bekkoame.ne.jp

（文責：細川孝（事務局））

理 事 会 報 告

第Ⅳ期第２回理事会

日時：2010年8月29日（日）10：30～14：45
場所：龍谷大学(深草キャンパス)紫英館６階会議室
出席：理事8名、委任状出席理事6名、欠席理事5名（なお、出席幹事4名）

【報告事項】

１．第31回研究会について
担当の塩野理事から、前日（8月28日）に開催された第31回研究会について、報告が行われた。

２．国際人権Ａ規約第13条問題特別委員会の要請行動について
担当の重本幹事（特別委員会責任者）から、3月15日（月）に国際人権Ａ規約第13条問題特別委員会が国際人権Ａ規約第13条の会と共同して行った、民主党および文部科学省への要請行動について報告が行われた。

【審議事項】

１．第Ⅳ期第１回理事会議事録（案）承認について
第Ⅳ期第１回理事会議事録（案）を承認した。

２．会員の異動について
2名の加入を承認した。7名の退会を承認した。以上を踏まえ、入退会承認後の会員数は、以下の通りとなった。
会員　218人、協力会員　7人（うち団体会員2）、計　225人（団体2を含む）
3年間会費未納にもとづく自然退会（学会規約の内規３．）の処理については、再度該当の会員に督促の上、次回理事会（2010年11月13日開催予定）に除籍処理を提案することを承認した。

３．第８回全国大会（2011年3月12日・13日、於：京都橘大学）について
全国大会の概要を以下の通り、決定した。次回理事会で、必要に応じて微調整し、最終決定することを確認した。

・全国大会のテーマについては、「大学政策と大学評価」とする。

2011年4月から認証評価が2巡目に入ることを意識し、日本における大学評価のもつ問題性を明らかにしたい。それは、（制度化された）大学評価が、大学関係者の自主的な営みというよりも、大学政策との関わりで導入・実施されていることによって生じている問題点を改めて浮き彫りにしたいということである。

ここ数年、認証評価に焦点を当てて、全国大会のテーマとしてきたが、新教育基本法と教育振興基本計画、「学士課程」答申等、大学政策が新たな展開をみせるもとで、大学政策との関わりも視野に入れて、大学評価を議論していきたい。

・シンポジュウム報告者について、候補者を確認した。

・分科会については、これまでの4分科会（午前、午後とも2分科会）を踏襲し、以下の通り開催する。

第１分科会：事務職員の評価に関わる分科会（村上理事担当）

第２分科会：認証評価の事例に関わる分科会（井上理事担当）

第３分科会：「大学評価の国際動向」をテーマとする分科会（細井顧問に依頼。無理な場合は、日永理事・重本幹事が担当）

第4分科会：「公立大学の『改革』と大学評価」をテーマとする分科会（光本幹事に依頼）

・準備のスケジュールについては、以下の通り。

9月10日、京都橘大学の教室施設を見学（碓井代表理事、細川事務局長）。

11月13日、第3回理事会でシンポジウム・分会の趣旨を確認。

2011年 1月、大会プログラムの発送。

2011年 2月、予稿集の〆切。

・大会プログラムについては、以下の第7回大会のプログラムを基本的に踏襲する。

第1日（2011年3月12日）

10：00～12：30　自由論題の分科会

12：30～13：30　昼休み休憩（この間、理事会を開催）

13：30～14：20　年次総会

14：30～18：00　シンポジウム

18：15～20：00　懇親会

第2日（2011年3月13日）

10：00～12：30　分科会（午前の部）

12：30～13：30　昼休み休憩（この間、理事会を開催）

13：30～16：00　分科会（午後の部）

16：10～17：00　総括討論

・その他

2010年9月から京都駅からのバス路線が開設されるので、会場（京都橘大学）までのアクセスの問題は解消されることが報告された。

４．規約改正について

役員および会計監査の任期を2年から3年に変更する規約改正の提案を、第8回全国大会時の会員総会に提案することを承認した。なお、次の「学会通信」で、規約改正（案）を会員に告知し、総会までに意見を寄せていただくことをあわせて承認した。改正の趣旨は、学会任期を3年とすることにより、学会の安定的な運営をめざすということである。会員総会で承認が得られれば、第Ｖ期（2012年3月～）から任期が3年となる。

改正部分（案）は、以下の通り（下線部を改正。2年から3年に）。

（役員）

第10条　本会に次の役員をおく。役員の任期は<u>3</u>年とし、再任を認める。

1 代表理事　　１～３名

2 副代表理事　　若干名

3 理事　　10～20名

4 事務局長　　１名

5 幹事　　若干名

（会計監査）

第15条　本会に会計監査人２名をおく。会計監査人の委嘱は、会員の中から理事会の推薦にもとづき総会の承認を経て代表理事が行う。会計監査人の任期は３年とする。会計監査人は本会の会計を監査する。

５．研究企画委員会について

研究企画委員会について、以下の3点を承認した。

・研究企画委員会の役割を当面、シリーズ本のコーディネートを中心とする。

・研究企画委員会の構成を以下の通りとする。

担当理事：川口、津田、日永

幹事：重本、光本

・委員会の責任者を日永理事とする。

６．第32回研究会について

研究会の概要を以下の通り、決定した。なお、同日の午前中には、第3回理事会が開催される。

・日程：11月13日（土）13時30分～

・会場：駒澤大学

・内容：テーマを教育政策の動向に関するものとして、報告者の候補を確認した。

７．シリーズ本の編集について

シリーズ本編集委員会責任者の重本幹事から、シリーズ本編集委員会の体制及び現在のシリーズ本刊行準備状況について報告があった。以下の出版計画を改めて承認した。

第3号：大学評価の国際動向、第4号：ＰＤＣＡサイクル、第5号：基本用語集

※　以下、学生参画、事務職員、アカハラ、無償化などが予定されている。

８．年報６号および７号の編集について

刊行が遅れている年報第6号について、年報編集委員会に対して事務局から刊行の促進を要請することを承認した。

９．財政状況について

担当の細川事務局長から以下の通り、報告がなされた。報告を受けた議論を踏まえ、以下の2点が承認された。

・会費の値下げを検討するために、事務局で試算を行う。

・会員拡大と関わって、会員であることのメリットを強調するために、非会員については、研究会の参加費を徴収する。あわせて、全国大会の参会費（会員1,500円に対して、非会員は3,000円）を引き上げる。

10．広報活動（学会案内リーフレット、ホームページほか）について

・リーフレットを、提案の内容の方向で作成することを承認した。修正点があれば、近日中に、事務局まで伝えることが確認された（理事会時点では、事務局長ならびに顧問を記載することが修正点として確認された）。リーフレットは、9月中に完成予定であり、会員には、次号の学会通信に同封される。

・担当の林幹事から、学会ホームページについては、国立情報学研究所のサーバーに移行することが新規には出来なくなっており、現状のままとすることが報告された。

11．会員の拡大について

担当の細川事務局長から、退職などを理由に、設立時からの会員の退会申し出が増えていることと、会員数が減少傾向にあることが報告された。報告を踏まえ、会員の比較的少ない分野での入会を呼びかけるなど、意識的に会員拡大を強めていくことを承認した。

12.その他

①研究会における非会員の報告者に対する交通費の支払いについて

・全国大会の支出に準じて取り扱うことを承認した（交通費のみであり、謝礼は支払わない）。

※　全国大会の謝礼は、記念講演30,000円、シンポジウム報告（非会員）20,000円となっている（分科会報告者には、支払われない）。

・第31回研究会（8月28日）での報告者（東京および静岡から）への交通費の支払いを追認した。

②「学会通信」について

・第25号（2010－2）を、本来は9月刊行（年3回、5月、9月、1月）であるが、10月上旬を目処に刊行することを承認した。

・内容は、第8回全国大会の概要、第31回研究会の報告、第32回研究会の案内、理事会報告、などとすること、学会リーフレットを同封することが確認された。

③会員名簿について

・会員名簿の記載事項を、以下の6項目とすることを承認した。

氏名、所属、専門、住所、電話、メールアドレス

・学会通信に暫定版を同封し、会員によるデータのチェックを経た後に、正式の版を作成することが確認された。

④第9回全国大会の開催校について

・2012年3月に開催される第9回全国大会の開催校の候補（と優先順位）を確認した。

⑤大学評価学会田中昌人記念学会賞について

・第2回学会賞については、2012年3月の会員総会で授与されることが確認された。

以上

第Ⅳ期第３回理事会

日時：2010年11月13日（土）11：00～12：20

場所：駒澤大学（深沢キャンパス）深沢校舎　1階　講義室１－１

出席：理事11名、委任状出席理事6名、欠席理事2名（なお、出席幹事4名、事務局2名）

【報告事項】

１．「学会通信」25号ならびに第Ⅳ期学会広報リーフレットについて

10月下旬に、「学会通信」25号ならびに第Ⅳ期学会広報リーフレットを会員に発送したことが報告された。

２．学会誌の編集について

事務局からの報告を踏まえ、遅れている第6号の編集を急ぎ、第7号を通常通り刊行していくことが確認された（合併号とはしない）。

３．シリーズ本の編集について

担当の重本幹事から、①第3巻（大学評価の国際動向）の入稿をすませ、800部印刷する予定であること、②第4巻を「ＰＤＣＡサイクル」とすること、③第5巻を「基本用語100」とすることと、その編集状況（あと1項目で100項目となる）ならびに印税の取り扱いの案（10％とし、学会が受け取ることとしたい）が報告された。

４．財政状況について

2010年11月12日現在の財政状況について報告された。

【審議事項】

１．第Ⅳ期第2回理事会議事録（案）承認について

第Ⅳ期第2回理事会議事録（案）を承認した。

２．会員の異動について

1名の退会を承認した。7名について、過年度会費（3年分）未納による除籍を承認した。以上を踏まえ、入退会承認後の会員数は、以下の通り。

会員　210人、協力会員　7人（うち団体会員2）、計　217人（団体2を含む）。

３．第８回全国大会（2011年3月12日・13日、於：京都橘大学）について

第2回理事会で承認された事項に関し、以下の点を承認した。

・シンポジュウム報告者については、2名の会員から了承を得ていることが報告され、もう1名の報告者の候補を確認した。
・シンポジュウム司会者を橋本理事、同じく討論者を川口理事とする。
・「大学評価の国際動向」をテーマとする分科会の担当を、日永理事とする。
・会員報告の分科会を、分科会の通し番号とする（第1～第4分科会の番号を、第2～第5分科会に変更する（会員報告分科会が1の場合））。
・会員報告分科会の司会を岡山理事とする。報告者数によって複数開催の場合には、司会者への依頼は事務局で対応する。
・大会参加費を、会員1,500円、院生等会員1,000円、非会員4,000円（従来は、3,000円）とする。
・各分科会の責任者は趣意書を作成するとともに、報告者を確定させる。プログラムの発送を1月中下旬に行うため、12月20日を期限とする。
・予稿集については、2月10日を〆切とする（これまでと同様に、学会事務局で編集作業を行う）。

４．規約改正について

第2回理事会で承認された規約改正（案）を、「学会通信」で会員に告知したことが報告された。

５．学会年会費の引き下げについて

学会《内規》の４．を以下のとおり修正することを、第8回総会に提案することを承認した。

（修正前）
４．　年会費は7,000円とする。なお､現職教職員以外の会費は3,000円とする。協力会員のうち団体会員については、会費を１口5,000円とし、個人会員については、1口1,000円とする。
（修正後）
４．年会費は6,000円とする。なお､現職教職員以外の会費は3,000円とする。協力会員のうち団体会員については、会費を１口5,000円とし、個人会員については、1口1,000円とする。

会員に対して「出版活動が堅調である」ことを知らせ、これが引き下げの主たる理由であるとの提案を行うことを確認した。

６．その他

１）第９回全国大会開催校について

2012年3月に開催する第９回全国大会の開催校を早稲田大学とすることを承認した。岡山理事に担当いただく。

２）事務局担当幹事に対する手当ての支給について

学会通信、学会名簿管理を担当する幹事に対して、手当てを支給することを承認した。目的は、学会（事務局）の業務の合理化、効率化を図るためである。支出の形態は（毎月ないし年の）定額ではなく業務ごとの支払いとする。施行については、理事会で承認を得て以降とする（次年度については予算計上するが、本年度は予備費から支出する）。

以上

会員総会への提案事項について

2011年1月　大学評価学会事務局

2011年3月12日に開催されます第8回総会において、「学会年会費の引き下げについて」提案します。これは、第Ⅳ期第3回理事会（2010年11月13日）における審議事項５．の承認にもとづくものです。より詳細な資料は、総会において配付しますが、提案趣旨および提案理由は以下のとおりです。

（提案の趣旨）年会費を7,000円からは6,000円に引き下げる（現職教職員以外の会費および協力会員の会費は、従来どおりとする）。

（提案の理由）大学評価学会の財政は、比較的堅調な状況を維持している。これには、出版活動（学会年報およびシリーズ本）が堅調であることが寄与している。今後も引き続き出版を積極的に行い、学会活動の発信を進めていきたい。あわせて、会費の引き下げを行うことによって、会員数の増加をめざしていきたい。現在ある資金を活かしながら出版活動を推進していくとともに、より多くの会員の参加を得て学会活動を発展させていくことを方向としたい。

【大学評価学会の日誌】

2010年

11月13日（土）　第Ⅳ期第3回理事会（於：駒澤大学深沢キャンパス）
第32回研究会（於：駒澤大学深沢キャンパス）

2011年

2月 1日（火）　事務局会議

＜今後の予定＞

3月12日（土）、13日（日）　第8回全国大会（於：京都橘大学）

編集・発行： 大学評価学会　共同事務局

〒560-0043　豊中市待兼山町1-16
大阪大学・大学教育実践センター
望月研究室 気付
e-mail: taromoch@cep.osaka-u.ac.jp

〒612-8577　京都市伏見区深草塚本町67
龍谷大学 細川研究室 気付
Tel：075(645)8634（細川）
075(645)8542（林）
e-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp
URL：http://www.unive.jp/

〈会費納入先〉郵便振替口座番号：00950−4−296005　名称：大学評価学会